mRNA COVID-19 ワクチン接種と口腔外科手術のタイミングについて

理事長　桐田　忠昭

我が国におきまして、mRNA COVID-19 ワクチン接種事業が進行する中、口腔外科手術時期とワクチン接種時期のタイミングについて、会員からいくつかのご質問をいただいています。そこで、本学会といたしまして、関連学会の意見を参考に以下の様な見解を申し上げます。

まず、mRNA COVID-19 ワクチン接種時期と外科手術時期の適切な間隔について、エビデンスに基づく明確な基準は現在のところ報告されておりません。そのため各施設の感染対策部門および手術チームで検討し、院内での共通認識を持って臨んでいただくことを推奨いたします。その上で下記のようにご提言をさせていただきます。

1. 外科手術後からワクチン接種までの待機間隔

１）一般社団法人日本医学会連合の提言（令和 3 年 4 月 23 日発出）におきましては、不活化ワクチンを参考とした一般論として、外科手術後からワクチン接種まで 2 週間の待機が適当ではないかとしています。

２）公益社団法人日本麻酔科学会の提言では、Royal College of Surgeons of England（22 January 2021）の例として、術後の反応とワクチン接種による反応を区別できるように、数日間（最大で 1 週間）の待機を挙げています。また、米国疾病予防管理センター（CDC）（May 13, 2021）の例として、手術や麻酔による免疫能の低下が抗体産生に影響しないように 2 週間の待機期間を挙げています。

2. ワクチン接種後から外科手術までの待機時間

１）一般社団法人日本医学会連合の提言（令和 3 年 4 月 23 日発出）では、ワクチン接種後の一過性の副反応がおさまる 3 日目以降に手術は可能としています。

２）公益社団法人日本麻酔科学会の提言では、上記２の２）の文章の中で、接種後数日で手術可能としています。

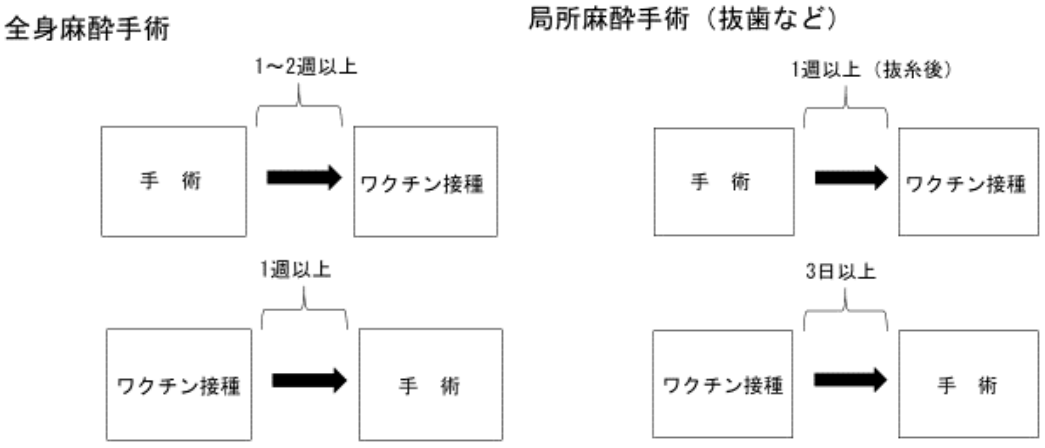
３）一般的なワクチンについては、全身麻酔や手術が免疫能を低下させるという観点から、ワクチン接種後、不活化ワクチンであれば 1 週間、生ワクチンであれば 4 週間空ける施設が多いが、最近は不活化ワクチンであれば 3 日間の待機で許容する施設もあるようです（小児科診療　2020 年 83 巻 11 号）。

3. 以上の見解を踏まえて、全身麻酔における通常の 2-3 時間の口腔外科手術であれば、不活化ワクチンに準じてワクチン前後約 1 週間以上の待機というのが

妥当かと思われます。また、手術侵襲の大きい口腔外科手術（悪性腫瘍の手術など）であれば、術後の免疫能低下を考えて術後 2 週間以上空けてのワクチン接種が妥当かと考えます。なお、手術後のワクチン接種の時期の可否は術後経過をみた上での医学的判断で、ということは言うまでもありません。

また、1 回目の接種と 2 回目の接種の間は 3 週間しかありませんから、手術によって 2 回目接種が妨げられないように全身麻酔手術は行わない方が無難かと思われます。

4. 局所麻酔下および静脈内鎮静下で実施可能な智歯抜歯などの口腔外科小手術については、抜歯後 1 週間以降に（抜糸時に抜歯部位を確認した上で）ワクチン接種可能の許可を与え、ワクチン接種後であれば 3 日以上経過して副反応が軽度であれば抜歯等の実施は可能だと考えます。ワクチン接種日には口腔外科小手術による抗菌薬や鎮痛薬を服用していない方が望ましいと考えます。

5. なお、緊急性のある手術は上記に関係なく行うべきだと考えます。

6. 再度申しますが、現時点では明確なエビデンスに基づいた基準はなく、それぞれの施設で検討し、院内で共通認識をもって判断することが大切で、今後、厚生労働省からの見解が出た場合や mRNA 以外のワクチンの場合には、変更する可能性があることを理解する必要があります。